

活動が負担「お金払う」



「有休を取って仕事を休むべし
なら、この作業で生まれるお金を私
が払います」。ある日、PTAの寄
付活動に出られない保護者から声
が上がった。

商品に付いているマークの点数を
集めて、学校に必要な備品や教材を
購入できるベルマーク活動。家庭か
ら集まったマークを協賛会社別に仕
分けし、計算して、整理袋に入れて
……。作業には時間がかかり、仕事
を休む必要がある保護者もいた。

活動分のお金を払うとの悲痛な訴
えを聞いたPTA会長は「一体、何
のための活動なのかと強く感じた。
これが解散への一つのきっかけとな
った。

大津市中心部近くに位置する市立
志賀小学校。2020年、PTAを解
散し、新たな保護者会組織を立ち上
げた。「やりたい人ができる範囲で」

と無理のない活動を心掛けている。

保護者の訴えにPTAのあり方を
自問し始めた当時の会長、谷祐治さ
ん(51)はベルマーク活動を一旦やめ
るなど見直しに取りかかったが、長
年の運用を改めるのは容易ではな
かった。「公平性を重んじ、皆で負担
することを前提とするPTAを改革
するのではなく、新たな組織を立ち
上げる方が前向きな活動ができると
判断した」と谷さんは振り返る。

新たな組織は保護者を中心に、卒
業生の保護者や地域団体も巻き込む
形とした。明治時代に開校した小学
校の前身「花園学校」にちなみ、「は
なその会」と名付けた。

PTA時代、保護者は子どもが6
年間在籍するうちに必ず1回は役員
や委員をしなければならなかった。
会長、副会長、会計のいずれかの三
役を経験すれば2回(子どもも2人分)
したことになるというルールもあっ
たという。当時を知る現会計の高野
真由さん(46)は「うちは子どもが3
人いるので、役員をする時期を計算
せなアカン」と思っていたと話す。
現在はそつとした強制ルールを一
掃。三役は立候補したメンバーが務
め、任期の定めもない。自発的に集

強制一掃 解散し新組織

まった計12人が「運営委員」として
イベントなどの企画・運営に携わっ
ている。

保護者の加入は任意であるため、
全保護者に入会届を配布して意思確
認しており、およそ8割が入会し
ている。現会長の木戸地泰孝さん
(43)は「強制的な運営や役割を見直
してスリム化し、『子どもたちのた
めに、やりたいと思う人ができる範
囲でやる』というスタンスでやって
いる」と語る。

会費については学校側と相談し
て、PTA会費でまかなっていた卒
業式で胸につける花、成績表を入れ
るファイルといった全員が使うもの
は「学校側が費用を徴収すべきだ」
として予算を見直した。月額300
円だった会費は150円に下がっ
た。

PTA時代は強制的な当番制だっ
た登校時の見守り活動も、当番制な
がらも年3回程度の任意参加とし
た。重点的に見守りたい「危険箇所」
を保護者同士の情報共有アプリで提
示してはいるが、保護者は勤務前や
通勤途中など通学路ならどこに立っ
てもいいことにしている。「この子が
グズったらできないけど、可能な限
りやる」といってベビーカーを押し

ながら参加する母親もいるという。
高野さんは「子どもが無事に行っ
て、無事に帰ってくるという目的を
果たすために、やり方は問わず、で
きる範囲でできることをするのが大
事」と力を込めて語る。

会の活動を笑顔で語る高野さんだ
が、仕事や長女の受験などで余裕が
なくなった時期もあった。そんな状
況を知った木戸地さんから「居心地
が悪かったら、抜けたらいいんよ」
と声をかけられ、実際に会を抜け、
落ち着いた頃にまた戻ってきた。

木戸地さんも会長だが、学区の自
治会といった地域の会合に仕事など
で出席できない場合は他のメンバー
に行ってもらおう。「PTAそのもの
を否定するのではなく、強制的であ
ったり、誰かに負担が偏ったりする
のが良くない。時代や家庭の状況に
合わせてやっていきたい」と木戸地
さん。今春、長男は6年生となり、
次男が入学した。「息子たちが卒業
しても地域住民として、はなその会
に関わっていきたい」とほほ笑んだ。

【前本麻有】
― 随時掲載



PTA時代のベストをそのまま活用し、ベビーカーを押しながら登校を見守る保護者
― 大津市内で(はなその会提供)

情報・体験をお寄
せください
郵便は〒530-8251
(住所不要) 毎日新
聞大阪社会部PTA
取材班▽メール (o.
shakaibu@maini
chi.co.jp)